聖霊

第1回　旧約時代の神の霊

はじめに

1. 学びの目的
   (1) 三位一体の神の第3位格、聖霊とは、どういうお方でしょうか。
   (2) 聖霊のバプテスマや、聖霊の満たしとは、どういう意味なのでしょうか。
2. 扱うテーマは、次の3つです。
   (1) 旧約時代の神の霊
   (2) 新約時代の聖霊の働き
   (3) 聖霊との関係
3. きょうは、第一のテーマ「　**旧約時代の神の霊**　」を扱います。

旧約時代の神の霊

1. 天地創造において
   (1) 神の霊が、海水に覆われ茫漠とした地球をおおっていた（創1：2）
   (2) いのちの息が吹き込まれ、人は生き物となった（創2：7）
2. 出エジプト、荒野において
   (1) 食べ物や飲料水の供給は、御霊によった（Ⅰコリ10：3～4）
   (2) 幕屋の製作では、神の霊が製作責任者に臨んだ（出31：2～3、36：1～2）
   (3) 指導者たちとの関係
      ① モーセの上には神の霊がとどまっていた（民11：25）
      ② 70人の長老たちの上に、一時的に神の霊がとどまった（民11：25）
      ③ モーセの預言的願い（民11：29）
      ④ ヨシュアには、神の霊が宿っていた（民27：18）
      ⑤ ヨシュアへの按手（申34：9）
3. 士師の時代とサウル王・ダビデ王の時代
   (1) 士師たちの上には、神の霊があった、おおった、下った
      ① オテニエル（士3：10）
      ② ギデオン（士6：34）
      ③ エフタ（士11：29）
      ④ サムソン（士13：25、14：6、14：19、15：14）
   (2) サウルとダビデ
      ① サウルに神の霊が激しく下った（Ⅰサム10：6、10）
      ② ダビデに神の霊が激しく下った（Ⅰサム16：13）
      ③ サウルから神の霊が離れた（Ⅰサム16：14）
      ④ ダビデの自覚（Ⅱサム23：2）

4. 旧約預言：イスラエル世界離散からの帰還とメシア的王国、それと聖霊との関係
   (1) 申命記 30：1～9
      ① 2節　「主に立ち返る」＝土地の契約が成就する前提
      ② 3節　神は、世界に離散しているイスラエルの民を集める
      ③ 4節　「天の果てから」＝旧約の聖徒たちの復活
      ④ 6節　「心の包皮を切り捨てられる」＝肉体の割礼ではなく、御霊による心の割礼（ロマ 2：28～29）
   (2) エレミヤ 31：31～34
      ① 新しい契約の仲介者はメシア（ヘブル 8：6～13）
   (3) エゼ 11：17～20
   (4) ヨエル 2：28～29
      ① イスラエル民族すべての人に神の霊が注がれる＝モーセの預言的願いの成就
      ② ゼカリヤ 3：9　その国の不義を一日のうちに取り除く
      ③ ゼカリヤ 13：1　その日、ダビデの家とエルサレムの住民のために、罪と汚れをきよめる一つの泉が開かれる
      ④ これが、ヘブル的な意味における「聖霊の中にバプテスマする（浸す）」（使徒 1：5、マタイ 3：11）であると考えられる。
         - 使徒 2 章は、イスラエルの民族的救いの予表（ここで聖霊を受けたのは全員がユダヤ人の使徒・弟子たち、救われた 3 千人もユダヤ人）
         - ゆえに、使徒 2：16 ではヨエルの預言が引用される
         - 使徒 2：40 は、メシアを拒否した「この曲がった（ユダヤ人の）世代から救われなさい」というメッセージ
         - 「【メシアがイスラエルの民を】聖霊の中にバプテスマする」のに対して、Ｉコリ 12：13 は「【聖霊がユダヤ人と異邦人とを】一つのからだ（教会）の中にバプテスマする」。両者を、同じ「聖霊のバプテスマ」と言うと混同する恐れがあるので注意。
5. 結論
   (1) 聖霊は、新約聖書においてはじめて登場するお方ではない。
   (2) 創造のみわざとイスラエル民族の歴史において、第一線において働いておられる。
   (3) 旧約預言によれば、メシアの王国にイスラエル民族が入るときには、全員が神の霊を受けている。神の霊を受けることは、神の国を受け継ぐための条件である。
   (4) ゆえに、イエスはニコデモに「人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。」と言い、ニコデモがそれを理解できないといると、「あなたはイスラエルの教師でありながら、こういうことがわからないのですか。」と言われたのである（ヨハネ 3：1～10）